

十六年甲申こうしんの春正月五日はるに、諸もろの卿大夫まへつきみたちの
安倍虫麻呂朝臣あへのむしまろあそみの家に集いへひて宴うたげする歌うた一首

一〇四一番

我わがやどの 君松きみまつの木きに 降ふる雪ゆきの 行ゆきには行ゆ
かじ 待まちにし待またむ

同じ月の十一月に、活道いくぢの岡をかに登のぼり、一株ひともちの
松まつの下もとに集つどひて飲のむ歌うた二首

一〇四二番

一ひとつ松まつ 幾代いくよか経へぬる 吹ふく風かぜの 声こゑの清きよきは
年深としふかみかも

一〇四三番

たまきはる 命いのちは知しらず 松まつが枝えを 結むすぶ心こころは
長ながくとそ思おもふ